

第4分科会 “困った子ども”ではなく、“困っている子ども”への気付き ～行動の要因から考える見立て・アセスメント～

大阪府教育センター カリキュラム開発部 支援教育推進室

「うまく伝わらないな」「どう支援したらよいのかな」

指導が難しく感じる“困った子ども”は、実は“困っている子ども”かもしれません。

“困っている”要因を子どもの行動から考え、効果的な指導・支援の方法を検討します。

報告

「通常の学級に在籍する支援が必要な子どもの指導・支援に係る調査・研究
ーガイドブック作成に向けてー」

講演

『子どもの見立て・アセスメントの重要性

ー効果的な指導・支援につなげるためにー』

小田 浩伸 （大阪大谷大学 教育学部 教授）



©モリジ

参加者のアンケートより

- ・とても分かりやすいお話で、具体的なエピソードや体験を通して、多様なニーズのある子どもへの指導・支援について再確認できました。
- ・アセスメントの重要性を知るとともに、そのポイントも理解することができました。
- ・指導力や指導意欲を向上させていただける講演でした。早速、現場に持ち帰って実践してみたいと思いました。